

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第1面）

産業廃棄物処理計画書	
H30 年 6 月 13 日	
愛 知 県 知 事 殿	
提出者	
住 所 愛知県碧南市中町5丁目100番地	
氏 名 太田重工業株式会社	
代表取締役 太田 迪子	
（法人にあつては、名称及び代表者の氏名）	
電話番号 0566-41-0045	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第 12 条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名 称	太田重工業株式会社 衣浦鋳造工場
事業場の所在 地	愛知県碧南市須磨町2番地の1
計画期 間	平成30年4月1日～平成31年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種 類	31：輸送用機械器具製造業
②事業の規 模	製造品出荷額： 137,200 万円
③従業員 数	54人

④産業廃棄物の一連の処理の工程	産業車両（フォークリフト）部品の鋳物製造 溶解工程：鉋さい（スラグ）→ 再生処理業者に委託して路盤材へ ：ばいじん→再生処理業者に委託して路盤材へ ：廃油→中間処理業者に委託し焼却後埋立 砂処理工程：鉋さい（ダスト）→ 再生処理業者に委託して路盤材へ ：鉋さい（余剰砂）→ 再生処理業者に委託して再生砂へ 研磨工程：廃プラ（パテカス、塗料カス）→ 中間処理業者に委託し焼却後埋立 ：コンクリートくず、陶磁器くず→中間処理業者に委託し破碎後埋立
-----------------	---

（日本工業規格 A 列 4 番）

（第 2 面）

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

環境保全統括者

環境保全管理責任者

環境保全責任者・廃棄物管理責任者

製造部環境保全管理者・廃棄物管理副責任者

間接部環境保全管理者

①工場産業廃棄物低減活動の推進者・マニフェスト運用管理責任者

④⑤収集運搬、処理業者の指導・管理

⑥⑦収集場所の保全・回収業務

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

1 現状	【前年度（平成 29 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	—
	排出量	t	— t
	（これまでに実施した取組） ・鉋さい（余剰砂）：不良低減による中子用砂の排出を低減する ・鉋さい（溶解スラグ）：品質の高い原材料を選別し、スラグの発生を抑制する。		
②計画	【目標】		

	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	—
	排出 量	t	— t
	(今後実施する予定の取組) ・ 鉋さい（余剰砂）：継続して不良低減等による中子用砂の排出を低減 する。 ・ 鉋さい（溶解スラグ）：仕入原材料の選別を強化し、不良原料を 排除することでスラグの発生を抑制する		
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ばいじん、ダスト、スラグ、余剰砂、廃プラ等、排出口から分別され、それぞれの置き場に保管されている。		
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 特に予定なし		

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
1 現状	【前年度（平成29年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラ（パテカス、その他）	—
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0.7 t	— t
	（これまでに実施した取組） ・ラッカーシンナーの再利用及び寿命延長を行う		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラ（塗料カス、パテカス）	—
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0.8 t	— t
	（今後実施する予定の取組） ・引き続きラッカーシンナーの再利用及び寿命延長を行う		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			

	1 現状	【前年度（平成29年度）実績】	
		産業廃棄物の種類	—
		自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	— t
		自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	— t
		（これまでに実施した取組） ・実施していない	
	②計画	【目標】	
		産業廃棄物の種類	—
		自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	— t
		自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	— t
		（今後実施する予定の取組） ・特に予定なし	

（第4面）

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
1 現状	【前年度（平成29年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	（これまでに実施した取組） ・実施していない		
	【目標】		
②計画	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う	— t	— t

		産業廃棄物の量		
		・特に予定なし		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項				
1 現状	【前年度（平成29年度）実績】			
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	—	
	全処理委託量	t	—	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	—	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	—	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	—	t
	認定熱回収業者以外 の熱回収を行う業者 への処理委託量	t	—	t
	(これまでに実施した取組)			
	・鉱さいの全量を再生利用業者と契約し、リサイクルした。			
	・処理業者の現地確認を定期的に行っている。			

(第5面)

②計画	【目標】			
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	—	
	全処理委託量	t	—	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	—	t
	再生利用業者への処理委託量	t	—	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	—	t

		認定熱回収業者以外の熱 回収を行う業者への処 理委託 量	t	— t
		(今後実施する予定の取組) ・ 複数の再生利用業者と委託契約を行い、確実にリサイクルできる体制を確立する。 ・ 廃プラの処理先を再生利用業者への変更を検討する ・ 優良認定処理業者への変更を検討する ・ 廃油として焼却していたクーラント廃液を、廃アルカリとして再生処理業者への委託に変更する。		
※事務処理欄				

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

別紙

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

現状	【前年度（平成29年度）実績】									
	廃棄物の種類	ばいじん (電気炉ダスト)	鉱さい (砂処理ダスト)	鉱さい (余剰砂)	鉱さい (溶解スラグ)	廃プラ (プラスチック、その他)	コンクリートくず及び陶磁 器くず（廃棄磁石）	廃油	廃アルカリ	木くず
	排出量	14.9 t	574.4 t	532.3 t	750.9 t	16.7	2.7 t	0.0 t	31.0 t	0.1 t
計画	【目標】									
	廃棄物の種類	ばいじん (電気炉ダスト)	鉱さい (砂処理ダスト)	鉱さい (余剰砂)	鉱さい (溶解スラグ)	廃プラ (プラスチック、その他)	コンクリートくず及び陶磁 器くず（廃棄磁石）	廃油	廃アルカリ	木くず
	排出量	15.0 t	570.0 t	530.0 t	750.0 t	16.5	3.0 t	0.4 t	25.0 t	0.2 t

